

# 高度医療と救急医療で 西和地域を支える

## 奈良県西和医療センター

文：横山 和弘（地方独立行政法人奈良県立病院機構奈良県西和医療センター院長）



奈良県西和医療センター全景

当院は、昭和54年4月1日、奈良県立三室病院として開設されたのがスタートで、奈良県西和地域（三郷町、平群町、斑鳩町、安堵町、王寺町、上牧町、河合町）の基幹病院として発展してきました。平成26年4月、運営が地方独立行政法人奈良県立病院機構（榊寿右理事長）に移行され、奈良県総合医療センター（旧奈良県立奈良病院）、奈良県総合リハビリテーションセンターと共に病院部門が統合されると同時に、「奈良県西和医療センター」と改称されました。なおこの病院機構にはさらに看護専門学校（平成29年4月に奈良校と三室校が合併）と医療専門職教育センターの2つの部門が含まれます。

奈良県西和医療センターは病床数300床（ICU4床、CCU4床、一般病床292床）、22診療科を有し、320列全身用CT、3テスラMRIをはじめとする最新の医療機器を備えた急性期・総合病院です。

私は、平成28年10月1日より当センターの病院長として着任させていただき、わずか半年余り経過した時期ですが、当院の医療レベルは他のどの病院にも引けをとらないものと確信しました。なかでも循環器内科は、昭和54年4月の病院開設時より現在に至るまで、常に時代の最先端の治療技術を携えて患者さんの治療に当たってきました。最近では、心臓血管のカテーテル治療や不整脈に対するカテーテルアブレーション（不整脈を高周波で治すカテーテル手術）、さらにはペースメーカーや植込み型除細動器の治療を数多く施行しており、奈良県全域に加えて他府県からも患者さんが紹介されてきています。これらの高度医療をより安全に行えるのは、平成5年10月に開設された心臓血管外科のバックアップがあるからであると言っても過言ではなく、優秀な循環器内科医と心臓血管外科医が密接に連携して治療に当たる集学的循環器病治療センターの存在が当院の最大の強みと考えています。

最近の特筆すべき事は、平成28年4月に消化器内科医が3名から6名に増えると同時に、中央内視鏡室は1室から3室にリニューアルし、最先端の内視鏡検査・治療は飛躍的に伸びてきています。また本年（平成29年）4月より渡辺明彦・川手健次の両先生を副院長としてお迎えし、当センターの外科系は大きく様変わりしようとしています。渡辺